

## 麦類赤かび病の防除の徹底について

本年産麦類の生育は、現在のところ全般的にやや遅く推移しています。大麦の穂揃期は早いところでは4月の第5～6半旬頃、小麦は4月の第6半旬～5月の第1半旬頃になると予想されます。本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期して下さい。本病は開花期（大麦では穂揃期）から乳熟期に感染し、開花期以降に曇雨天が続く場合には発生が助長されます。

### (1) 薬剤による防除法

薬剤散布は二条大麦では穂揃期とその7～10日後、小麦では開花最盛期頃（出穂7日後頃）とその7～10日後の2回行う。下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。

### (2) 防除上の参考事項

- ・大麦の穂揃期または小麦の開花最盛期から20日を過ぎると防除効果は低下する。
- ・二条大麦では2回目の薬剤散布の方が防除効果は高いので、1回目の散布を行っておらず、すでに大麦の穂揃期を過ぎている場合でも、できるだけ速やかに薬剤散布を行う。
- ・小麦を除く麦類では、トップジンM水和剤及び粉剤DLでは出穂期以降1回しか使用できないので注意する。
- ・収穫後は速やかに乾燥する。

### (3) 麦類赤かび病の防除薬剤

薬剤名	散布量・希釈倍率	農薬使用基準	
		時期	回数
サルファーゾル	400倍	-	-
コロナフロアブル	400倍	-	-
イオウフロアブル	400～800倍	-	-
トップジンM粉剤DL	4kg/10a	収穫14日前まで	小麦： 3回以内（出穂期以降は2回以内）、 麦類（小麦を除く）： 3回以内（出穂期以降は1回以内）
トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで（小麦） 収穫30日前まで〔麦類（小麦を除く）〕	
トップジンMゾル	1,000～1,500倍（小麦） 1,500倍〔麦類（小麦を除く）〕	収穫14日前まで	
トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
トリフミン乳剤（小麦）	1,000倍	収穫 3日前まで	2回以内
シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫 7日前まで（小麦） 収穫14日前まで（大麦）	
ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内
ベルコート水和剤（小麦）	1,000～2,000倍	収穫21日前まで	3回以内（出穂期以降は1回以内）
ワークアップ粉剤DL	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内
ワークアップフロアブル	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	収穫 3日前まで（小麦） 収穫21日前まで（大麦）	3回以内 1回以内

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。